

初等外国語教育法

10月13日 リフレクション

①今回の授業を通して、教師となって小学生を指導するとき、児童が社会に出たとき、どのような社会になっているかを想像しながら、外国語を指導する必要があると学んだ。また、授業で学んだ定型文を活用して自分の考えや意見を伝えるという活動を通して、子どものコミュニケーション活動やコミュニケーション能力が保証されると学んだ。コミュニケーション活動を授業に取り入れても、その活動を難しいと感じる児童・生徒もいるので、児童・生徒が外国語活動の意義や楽しさを感じられるような授業をつくらなければならないと感じた。そのためは、正しく語彙や文法を扱えているかということよりも自分の考えを相手に伝えられたかを重視して、子どもに達成感を与えられるような授業がよいと考える。

②今回の講義で小学生のうちから語彙力がなくても相手に自分の気持ちを伝えようという気持ちを持つことが大切だということがわかった。自分は今までスキル重視で英語を学んできたので、今後英語を教える際はコミュニケーション重視の考え方で教えていきたいと思った。

③今回の講義では、ブレイクアウトセッションで小中高の英語の授業について話し合ったのですが、英語での自分の主張をする機会があったのかを話してみて、自分の人との違いを知ることができたとともに、新たな考え方(Fineなどは自己主張にはいるのか)を知ることができた。

④今回の講義をきいて自分が今まで小学校中学校高校の授業で自分の感情を言う機会は少なかったのだと感じた。ディベートの授業でも自分が賛成派か反対派か決めてそのことについて意見を書くことは行ったが、そのことを発表する機会はなかったので自分が教師になった時には意見を書くことだけでなく、その意見をみんなに発表する機会も作れるといいなと思いました。これから外国語の授業についてももっともっと学びを深めていけるように頑張りたいと思う。

⑤言葉は、自分の考えや気持ちを相手に伝えるためのものであり、外国語においてもコミュニケーションを重視した授業づくりが大切であることが分かった。今まで受けてきた英語の授業を振り返ってみると、定型文に自分の知っている単語を入れて文を作ったり、決まった相槌で会話をすすめたりしていたと思い、コミュニケーションをしているようでしていなかったことに気が付いた。定型文に当てはめられることも必要かも知れないけど、本当に言いたいことをどうにか伝えようとする姿勢を身に付けていくことが1番大切なのだと感じた。

⑥今まで、私自身文法事項を中心に学んだり、YES/NO でしか答えない文章を多く話していました。英語が話せる、話せないに関わらず、自分の伝えたいことをきちんと表現できるような子どもたちの育成を行うことが、英語のコミュニケーション能力だけでなく、日本語でのコミュニケーション能力の向上にもつながるのではないかと考えました。

⑦英語はコミュニケーションツールという認識の大切さを感じた。ただ、単語や言葉を知るために話す英語は、コミュニケーションではなく、理解力にかけるものではないかという先生のお話やグループ討議での話題にはとても納得がいった。言葉として機能するには、ちゃんと発言者の意図がなければ意味がないと思う。文法や語彙の習得を目的とした会話の練習は大事だが、自在に操れる力とならなければ意味がないと感じた。そのためには、英語は言葉であり、コミュニケーションに役立つものだとして認識しながら、英語に対する困難さを取り除く必要があるのではないかと考えた。これからの講義で、英語をコミュニケーションツールとして機能する英語教育とは何かを意識して取り組みたい。先生へ URL が講義 5 分前にしか届かなくて大変不安です。20 分前に送信できていますでしょうか。ご確認お願いします。

⑧今日の授業では、今まで自分が受けてきた英語教育を振り返り、自分の気持ちを伝えあう活動があったかどうかグループで議論した。グループのほとんどのひとが自分の気持ちを伝えあう活動をしてこなかったことが分かった。英語の授業はコミュニケーションを取ることが大切なはずなのに、正しい文法とか発音を授業で求められるあまり、一番発言などをしたくない教科だったとおもいました。自分が小学校の教員になった時、子ども達にコミュニケーションを取ることの楽しさを伝えることのできる外国語の授業が出来るようになりたいと思いました。(名前がありません)

⑨私は、今回の授業を通して、「外国語は相手とのコミュニケーションをとるために学ぶもの」という言葉を聞いて、とても納得しました。私は中学生まで英語が得意で授業が大好きだったのですが、高校生になると、学習内容が難しくなって苦手意識が出てきてしまいました。高校の授業では、英語を活用する場面が少なく、文法や単語を覚えたり、教科書の長文を読んだりする活動が中心となっていたので、もっと他の生徒とコミュニケーションが取れるような活動を多く取り入れていった方が良いと感じました。また、私の塾の先生は、とてもユニークな方で、普段から英会話で良く使う表現や、英語の歌を沢山教えてくれて、実際に使える表現を楽しく学ぶことができたので、このような活動をもっともっと学校でも行っていくべきだと思いました。これまでの学校教育を受けてきて、日本の英語教育では、なんだか文法等に力を入れすぎていて、重要なコミュニケーションを行うための活動が少ない、と感じることが多々あったので、何のために外国語を学ぶのか、という本質をもう

一度見つめ直して、これからの外国語活動について考えていきたいです。

⑩グローバル化が進む現代社会において、英語を用いたコミュニケーション能力は必要不可欠な力になります。しかし、私が受けてきた英語教育は実践的な授業はめったになく、どれも高校、大学受験に向けたスキルアップを図る機械的な授業が多かったように思います。実践力が身に付き英語を用いたコミュニケーション能力の向上を目指した英語教育が行われないことに子どものころから疑問に思っていました。本年度から小学校で外国語として英語を体験的に学ぶことができると知り、すごく安心すると同時に、その役割を担うのは我々教師であるという実感がわきました。英語を苦手教科としていたため、子どもたちに正しく指導できるのか不安でしたが、今回の講義の中で大城先生おっしゃっていた英検三級レベルでも指導できるという言葉聞いてやる気がわきました。従来の単語や文法を暗記してから実践として活用するスタイルとは逆で、これからは本来の言語習得の通りに伝えたいことをわかる範囲の語彙で補い、新たな語彙を主体的に習得するやり方で教師の負担も減り、何より子ども自身が楽しく学べ、実践力がつくことが期待できます。本講義で英語に対する恐怖心が和らぎ、自分でも指導できる実感がわきました。今後の講義を通して具体的な授業像を作り上げられたらいいなと思います。(名前がありません)

⑪今回の授業を通して、今までの外国語教育が時代を超えて変化していることが理解できた。ディスカッションでは、グループで小中高を振り返り自分たちの意見を出し合った。小学校で共通していたのは、決まった言葉を話すことが多く気持ちをやり取りすることはなかったという意見が共通して出てきた。中高では、学校ごとに学び方が異なっていたが、徐々に気持ちを含めた作文や話をする機会が増えてきているという風を感じた。また、先生が考えて英語の歌を取り入れていたが、効果がなく単語のテストに切り替えるなどの失敗作のなども挙げられていた。外国語活動の中でスキル重視や国際コミュニケーション重視はどのように違うのか聞いたときに、どちらも私の中では大切だと感じた。しかし、先生が話をしていたように日本人はコミュニケーションが苦手ということを知り、自分自身もこれからの学びの時に進んでコミュニケーションを取ることを意識していきたいし、教師になったときに自然と児童生徒にもコミュニケーションをしてもらうには、そうすればいいのか研究していきたい。

⑫通信状況が悪く、授業になかなか参加出来ない状態でした。しかし、最後に先生と話が出来たことで外国語教育がどうあるべきかを考え、深めることができたように思います。小学校と中学校の連携をどのように行っていくのか、コミュニケーション力を身につけるとはどういうことなのかと言った課題も見えてきたので、学習を通して自分の考えをまとめていくことが出来ればと思いました。

⑬今回の講義を受けて、英語というものは楽しさや目的などを求めるために用いるコミュニケーションであるはずなのに、日本の英語教育では決まりきった文法や語彙や表現ばかりを教えていて、子どもたちの意思による表現というのはなかなかなされてこなかったということを感じました。また、グループ討論をしてみて、私自身文法や語彙を教えられる授業しかしてこなかったのも、グループの他の人の聞いた、気持ちを英語で伝える授業や環境問題について英語で討論するような授業、数学の研究を英訳する授業、などがあつたと聞いてとても大きな格差があるなと感じました。やはり、これからの英語教育では定形文を教えて終わらずその後のコミュニケーションに定形文を活かすような授業が必要であると感じました。「言いたいことを英語で言える」ような子どもたちを育てていきたいと思います。講義の最後の方で、これまでの英語教育は滑走路が短すぎたとありました。最初はどのような意味かなと疑問に思ったのですが、先生の話聞いてみると他教科では、その教科への入り口として体験があるが英語は中学生にぬつたらいきなり文法や語彙へと入ってしまい、体験が少ないとのことでした。全くその通りだと思いました。英語というものをあまりしらずいきなり文法や語彙となれば子どもたちが英語が嫌になる理由もわかるなと感じました。これを改善するために、私が教師になった際には中学校への繋ぎを意識して、より体験的で子どもたちが英語を使いたくなるような授業を作っていきたいと思います。

⑭小・中学校の外国語学習は、たくさん覚えることより、英語を通してコミュニケーションを行う、英語に触れる、という感覚で学んでいました。そのこともあり、ALTの先生にHow are you?と聞かれても、I'm happy.しか答えなかったし、自分の感情を正確に事細かく教えることも必要ないと思っていました。でもそれは、日本人特有の恥ずかしさや積極性のなさに繋がっているのではないかという意見もあり、根本的な話だったのだと気付きました。

⑮小学生の英語はまだ飛んでいない飛行機のようなものという例えが印象に残った。整った英語を教えることよりも、自分が言いたいことを何とかして伝えようとするのが大切なのだと分かった。また、「思っている、言わなければ思っていないのと一緒に」、「言わない人はいないのと一緒に」という言葉もとても心に迫るものがあった。私自身、グループで意見を述べたりすることが積極的にできていないのに、子供たちに意見を持とうと指導できないと思うため、まずは自分が発言しないといけないと感じた。

⑯今日の講義では、英語が小学校で教科として導入されるまでの歴史について知り、日本の英語教育の現状について語り合い、共有することができました。私は、小学校では挨拶とちょっとした会話、高校ではコミュニケーション英語で政治問題や世界問題についての自分の考えを、英語で文章を作り討論する授業をしました。中学校では主に文法を習い、コミュニケーションする時間が少なかったと感じていました。グループの人の意見では、小学校では英語で会話はしていたが、中学では文法や単語を学び、特に高校では大学受験に向けて、

文章を読解する問題を多く行って、コミュニケーションをとる時間が少なかったと言っていました。私は、出身が沖縄県外なので、出身地との差があるのかとも思いました。そして、小学校で行っていた授業の始まりの挨拶では、ほとんどの人が I'm fine. と言っていたという事例から、自分の知っている単語や文法で、話せる言葉でしかコミュニケーションをとらないということがはっきりとわかりました。たしかに、日本人の人目を気にして周りに合わせるという性格から、気軽に思ったことを言えない児童、生徒が多いなと思いました。自分が教師になった時は、その児童が、単語や文法を知らなくても、ジェスチャーや図など様々なひょうげんでやり取りする能力を伸ばし、児童が新しい単語を納得して習得できるように、コミュニケーションをとっていきたいと思いました。

⑰今回の授業を受けて、私たちがこれまで受けてきた英語の授業は見直される必要があると考えることができた。私はこれまで小学校、中学校、高校と英語の授業を受けてきたが、小学生のときは先生が言ったことを繰り返すだけの授業や、中学時代の英語の授業は先生が作った文章の中に自分で単語を当てはめて文章を作って発表するなどの授業が行われており、これまでの英語の授業を振り返ると、自分の作った文章で自分の気持ちを表現したり、自由な文法を使って文章を作る機会が少なかったと気づいた。そのため、高校生のときに自分で文章を作る授業の際には、何から書き始めたらよいのか、この文法は当たっているのかなどを気にして自分の言いたいことよりも辞書に載っている例文を引用して文を作っていた。しかし今回の授業を受けて言葉を話すことはコミュニケーションを目的としており、自分の伝えたいことの単語や文法が分からなくてもジェスチャーを使ったり絵で表現したり簡単な分かる単語を使って表現するだけで良いと考えることができるようになった。この学びを生かして、これからの英語教育では文法や決まりきった型にはめた指導をするのではなく、対話的な学習を生かして実際にコミュニケーションを取りながら話す体験を通して学ぶことが大切なのではないかと考えた。これからの授業で更に英語教育への学びを深めていきたいと思った。

⑱本日の講義では、グループで今まで自分自身が受けてきた英語教育について振り返りました。小学校のころの経験として、単語を中心にゲームなどで覚える、また、決められたフレーズを歌やリズムに合わせて言う、というものが多かったです。今考えてみると、これらは自分の気持ちを伝えていたか、先生や友達とコミュニケーション取れていたか、と考えると、できていなかったように思いました。他の教科でも、今受けている大学の授業でも言えることなのですが、私たち世代の人たちはあたっていると自信のある答えしか発表できないという思いの人がたくさんいると思います。しかし、これからの英語教育のあり方として、単語が分からずとも、どうにかして伝えようとする、コミュニケーションを楽しむうちに必要な語句を覚えていくという、コミュニケーション重視の教育が必要だと思いました。教師となる自分自身が英語に自信がなくとも、積極的な態度を身に付け、もう少し気軽な気持ち

で自分の考えを英語で表現していきたいです。急いで文法などのスキルを身に付けさせると、英語に対して苦手意識や堅苦しいイメージを子どもたちに持たせてしまうと思うので、身近であるもの・楽しいものと思ってもらえるような英語の授業をしたいと思いました。

⑱英語は学習をこまめに蓄えていくのではなく、毎回の授業で少しずつ使っていくことが何よりも効果的で必要なことだと、先生の子どものさんの話を聞いて強く共感しました。また、「What's this?」のお話で、今私も中学校の英語を塾のバイトで教えることがあり、先生が挙げた、分かりきった例というものを全て私は例にして教えていたので、なんだか自分の事を言われているみたいで、恥ずかしさと、先生側としてよくない指導をしてしまった後悔さが残りました。生徒の分かりやすいように、とあまりにも考えすぎて、英語に興味を持たせようとする本当の趣旨をそもそも忘れてしまっていたのかもしれない。なので、今日の授業は今からでも私はすごく役に立つ内容だったのでとても勉強になるものだったし、教える効率さと分かりやすさ、それに興味を引き出すための手立てを考えながら授業を行う「教える」ということの難しさを身に染みて感じました。

⑳これまで受けてきた外国語の授業を、「自分の気持ちや考えを述べることができる授業であったか」に重きを置いて振り返ると、思っていたよりも型にはまった授業スタイル・学習スタイルが取られていた。自分の気持ちや考えを述べる場は設けられていても、子どもたちが自分の思うように気持ちを表現出来ずにいたり、教師と子どもたちの間でコミュニケーションが取れていなかったりする事実があることを知った。また、本当のコミュニケーションをキーワードとして学校現場で行われている授業を見てみると、今行われている授業が目指すべきスタイルと矛盾している、本当に意味のあるものなのか？と疑問に感じるものであった。大城先生が挙げていたように、子どもたちが「本当にこれってなんだ!？」と感ずることの出来るようなお題やテーマにすることや、子どもたちにとって「分からない単語」が現れた時に、知っている単語に置き換えて説明することが出来る環境づくりをする必要があると感じた。外国語の授業でも他教科と同じように、たくさん間違えて当たり前という雰囲気を作ってあげることや、今よりもっと体験的な活動を経験させてあげる必要があると感じた。今までの外国語活動では、経験と学習した知識の繋がりが薄すぎると感じた。子どもたちにとって、「あ～、そういう事だったのか!」と、ストンと落ちていくような知識の提供の仕方、外国語に興味をもってくれるような授業づくりや固定概念を取っ払うことが出来る教師になりたいと感じた。

㉑今回の講義では、小学校の英語教育が現在のような教科として扱われることになるまでの変遷を学習しました。私自身が小学校・中学校・高校で受けてきた英語授業を振り返ってみて、小学校の頃の英語の時間は、英語という語学を勉強している感覚よりも日本語以外の言語に触れて活動するというイメージが強くありました。中学校、高校では文法や大量の単

語が出てきて覚えられないことから苦手意識が出てきました。今日の講義であった「コミュニケーションを図るために学習しているもの」という認識よりも、苦手けど受験に必要なのでやらされている教科。という認識の方が強くありました。ですが、このように学習して習得した英語の知識は本当に意味のある学習にはならず、逆に、もっと英語を完璧に理解して話せるようになるまでコミュニケーションの手段として活用できない。と思うようになっていたのだと今日の講義の内容と自分の経験を照らし合わせてみて感じました。 他国の文化に興味を持ったり、いろんな人と話してみたいという興味から英語を使って他の国の人とコミュニケーション取りたい。という思いが英語を学習していく上で大切なことだと改めて気づきました。これから小学校で英語を教えていく立場になっていく中でコミュニケーションを前提にした学習を提供できるように努めていきたいと思います。

②②グループで小、中、高の英語の授業について振り返ってみて、小中は自分の考えを英語で伝えるようなことをしなかったが、高校からは少しやるようになったというのが多かった。しかし、考えたことがうまく言えないことが多く大変だったという意見で一致した。先生の話聞いて、私たちが話したことは、スキル重視だったと感じ、コミュニケーション重視な外国語の授業をしていけるようにしたいと思った。

②③今回の講義では英語の授業でのコミュニケーションの大切さについて学ぶことができました。これからの社会で生きていくためには、お互い自分の気持ちを伝え合う力が必要で、お互いをすることが恐怖心を取り除く方法であると学びました。自分の伝えたいことを、例えば英語だったら、「単語が分からないから伝えない」のではなく、単語がわからなくてもジェスチャーや絵などを用いてなんとか伝えようとする姿勢を身につけることが大切だと学びました。言葉がわかるからコミュニケーションを行えるのではなく、コミュニケーションから言葉を学んでいくという大城先生のお言葉がとても心に残りました。その通りだと思えます。このお言葉を忘れずに、外国語に限らず、授業をつくっていきましょうと思います。

②④私たちのグループでは小学校はALTの先生と英語を話してみようという風に英語に慣れよう、英語を楽しもうといった授業が多く、高校では授業で「コミュニケーション英語」という風に英作文を書いたり、意見の交換や英会話を中心とした授業を受けてきました。コミュニケーション英語という授業名でしたが、本日の授業で先生がおっしゃっていたような定型文を超えた自分が本当に言いたいこと、目的のある会話ではなかったと思います。英語の授業は大切だと思う児童生徒は多いが、英語が好きだという児童生徒が少ないのは難しい、覚えなくてはいけないという先入観があるのではないのでしょうか。私は外国のこと、国際理解に当たる話は好きです。ただ、英語の授業は成績をつけなければならないということもあって、単語、文法を覚える、発音を覚えるといった「勉強」が必要になってきます。初めの方でつまづいてしまったらもう間に合わないという気がしてやる気もなくなったと

感じます。インターネットの情報サイトで「単語3つでコミュニケーションは取れる」や「難しい単語は覚えなくても会話はできる」といった内容のものを見かけます。これは、コミュニケーションをとることを重要視し、きちんとした英文法や日本語のような英語ではなく相手に伝える、会話することを目的とすればもっと気楽に、楽しく学べるのではないかと思います。

②⑤ 今まで私が受けてきた、外国語教育は自分の気持ちを伝えた気になっていることが多かったんだなということに気づきました。私は小学校の時にはALTの先生とたくさんいろいろなお話をして、「英語って楽しいな！」という気持ちでしたが、中学、高校に上がるにつれて、「この答え方は当たっているのかな？」と不安になることが増えていたような気がします。本日の講義での先生のお子さんの話を聞いて、「私も、こういう風に経験を積んで、日本語を話せるようになったんだよなー」と感じました。初めから完璧にできる人なんていないということ自分を言い聞かせながら、まずは自分自身のコミュニケーションの取り方を見直していきたいと思います。自分の気持ちを伝えるのは私にとって、勇気があることですが、「言わないのはいないのと同じ」存在していない人になるのは避けたいので、頑張っ て伝えられるようにしていきたいです。先生の考え方が、今まで聞いてきた英語に関する話と全然違って、とても新鮮で素敵だなと感じました。来週もよろしくお願いします。ありがとうございました！

②⑥ 私は今回の講義を通して、外国語の授業はコミュニケーションを学ぶための授業であるということを忘れてはならないと強く思った。今まで私が受けてきた英語の授業を思い返してみると、小学校では、先生が言った言葉をオウム返しで真似したり、あいさつや、簡単な質問に対する答え方などをゲームをしながら学んだりすることが多かったため、あまりコミュニケーションをとる活動は行っていなかった。中学校に入ると、本格的な文法や単語を習い始め、定型文や単語を用いて文を書いたり、スピーチやディベートを行ったりする授業があった。そのため、小学校のときよりも自分の考えを相手に伝える活動多く、活発にコミュニケーションをとることができていたと思った。しかし、よく考えてみると、スピーチやディベートで自分の意見を言う際に、自分が本当に言いたいことではなく、自分が分かる単語を使って自分の意見のように相手とコミュニケーションをとっていたため、コミュニケーションをしているように見えて、実際はできていなかったんだなということ今日の授業で気づくことができた。そのため、外国語の授業では、コミュニケーションを重視し、本当に自分が言いたいことの英語の文法や単語が分からなかったとしても、何とかして伝えようとする力を伸ばしていき、自分から話しかけることができる子どもを育成する必要があると考えた。

②⑦ 今日の講義で特に興味深かったのは、小学校英語の授業で「How are you ?」と先生に聞

かれて、本当は元気がなく落ち込んでいたとしても「I'm fine.」「I'm happy.」と答え、本当の気持ちや意見を言わなかったという話だ。その行動の理由として大城先生が、「言いたいことより言えること（スキル重視）になっている」「完璧じゃないと発表できないという風潮」が原因だとおっしゃっていたのを聞き、私はとても納得した。なぜなら私自身、大学生になった今も、自分の気持ちを伝えることより、言える英語を使ってとりあえず話を繋ぐということに意識が向いていたからである。しかし今日の講義を通して、本当のコミュニケーションとは、自分の考えや気持ちを相手に伝え楽しむこと、その態度を身につけることが大切だと学んだ。ただ定型文を暗記して、目的がわからないまま質問しあったり、先生の真似をするだけの授業になってはいけないということだ。また、「What's this?」「This is a pen.」というお馴染みの型があるが、このようにわかりきったことを聞くのではなく、例えば各国のポストなど、様々なものを教材にして「What's this?」と話を広げていく方が楽しい授業になるとわかった。国際理解の素地を作ることにも繋がり、より子ども達の未来に役立つ授業になる。今日学んだことを授業作りに活かしていきたい。

⑳今回、オリエンテーションを除き、外国語教育の内容に入っていくのは第一回目でした。初めから、外国語教育の専門用語であったり、専門知識ばかりだとついていけないという心配も多少抱きながら講義を受けましたが、そんな心配は無用だというくらい基礎、入門から始めてくれて難なく受け続けることができました。基礎、入門というのも自分の小学校、中学校、高校での外国語の授業を思い出し、その中で自分の意見や考えを発表する場面があったかどうかや、コミュニケーションをとる機会があったかななどを ZOOM での遠隔授業ではありましたが、グループセッション機能を使い、周りの人と共有し、まずは外国語教育がどのようなものなのか、何を目的としてやっていくのかを理解するところからでした。これのおかげで中学校は文法、単語の暗記が多かったよねだとか、高校になるとコミュニケーションとる場面は増えたけど試験対策で結局、知識暗記型に戻ったよねだとか様々な発見、気づきを得ることができた上に、この事について先生からお話があったのが、文法の勉強がいらぬわけではない、だけどそこで終わってはいけないよね、意味ないよねとのことで、これを聞いた時はすごくハッとさせられました。これからもこのように何かに気づき、ハッとしたりすることができるよう柔軟な考えを持ち、いろんな人の意見を積極的に聞いていこうと感じました。

㉑小学校の外国語教育ではコミュニケーションを重視してから、スキルを重視することの重要性を知ることができました。私自身が英語で自分の考えや気持ちを伝える時に、やっぱり自分が言いたいことの単語がわからないから嫌だな、したくないなと思っていた。でも、今日の先生の話聞いて習った単語で表現できることのほうが少なく、コミュニケーションを取るということは言葉だけでなくジェスチャーや絵を描いて伝えることもコミュニケーションであることを学ぶことができました。だから児童に教える際にも言葉だけでなく

様々な方法を使ってコミュニケーションを取ることができることを伝えていきたいです。

⑩日本は、小学校から英語を学習しているのに全然話せないのに対して、中国は2、3年ほどである程度コミュニケーションを取れるようになっていて、それらの体験から日本でももっと対話的に学ぶ必要があるのではないかと思っていたので、その学習内容を今回の講義で具体的に考えることができましたと思います。

⑪今まで受けて来た授業はどれも定型を教わり文法を教わりと自分の意見を伝えるという授業では無かったと思う。また飛行機の例のように滑走路を長くするために小学生から英語をならい出すのは良いと思ったがどれくらいの学年からならい出すのが良いのか気になった。

⑫今日の講義を通して、グループワークのなかで小学校のころの外国語教育は活動的な学習が多く、比較的楽しかったという意見が多く聞かれたが、中学・高校になると単語や文法学習が主になり、いいイメージをもつことができなかったという意見が多く聞かれた。小学校の授業では、毎時間ALTの先生と一緒に授業をしていたこともあって、積極的な発言を促されていたが、中学・高校になると受け身の授業になっていたため、このような意見が多く聞かれたのではと考えられた。だが、楽しいというイメージのある小学校の外国語教育でも、コミュニケーションの目的として外国語が使われていないことがひとつの課題であり、これからの外国語教育の課題として、楽しいというイメージを崩さず、子どもたちのコミュニケーションを図るツールとして外国語が使われるような場面を提供することが必要となるのではと考えた。

⑬今回の講義では、自分とは違う視点の意見を聞くことができました。自分たちのグループでは、小学校の英語はALTが活躍して楽しく英語を学べた。また、基本的な単語やペアでの活動が多くあったので小学校の英語はコミュニケーションを多くとってやってた記憶があるという意見が多かった。また、中学校、高校に上がるにつれて英語の文や、文法を習うことが多くなり、会話をするだけの授業が減ったのでコミュニケーションの力はつかないのではないかという意見がありました。しかし、一班の話聞いて私たちがグループで話した小学校の英語の方がコミュニケーションがあると思っているのは、少し違うのではないかと考えた。コミュニケーションがつくのは、英語としてのコミュニケーションではなくて周りの人と話す力がつくと言った視点でのコミュニケーション能力なのではないかと考えました。よくよく考えてみれば小学校の時にペアで話す英語は自分の本当の感情ではなかったと思いました。今回の講義では、自分とは違う視点での意見がきけて、もう一度自分たちの意見を考え直せてよかったと思いました。

③④今回の授業で、今まで私たちが受けてきた外国語教育がいかに自分自身の感情を表に出すことがなかったのかを知ることができた。実際に私が受けてきた外国語教育も、教員の「How are you?」という質問に対して、私たち生徒は「I'm fine.」としか答えることがなかったからだ。しかし、今回の授業の中で「apple」という英単語が分からない状態で自分の好きな果物を発表した女の子の話を聞き、相手に何とか情報を伝えようとするコミュニケーションの姿勢が大切であることを学んだ。このことを受け、私が教員になり外国語教育を行うときには、あえて日本語では知っているけれど英語では分からない単語を説明させる取り組みをやってみたいと思う。

③⑤コミュニケーションとは自分の考えや思いを伝えるもので、コミュニケーションの目的は言葉であり、言葉とは真実をもって伝えることである。とすることを学び、この意味を持ってコミュニケーションについて考えると、外国語の授業の中でコミュニケーションはとれているようで取れていないのかもしれないということも学ぶことができました。また、高校生のときの外国語の授業の中ではディベートをよくしており自分の意見を言う機会があるということで、コミュニケーションをとっていたと思っていましたが、賛成・反対までも自分で決められるわけではないため本当の意味でコミュニケーションをとっていたかと言われると、そうではないかもしれないと気づくことができました。私が中学生の時に参加したAmerican summer campではアメリカの大学生と二泊三日過ごすのですがアメリカ人との会話は英語のみで疑似留学体験のようなもので小学生も参加していました。そこで私が感じたのは正しい文法が分からなくても単語をつなげてでも英語を話したときもありましたが、自分の話した英語が相手に伝わるのが楽しく、英語や海外の人との会話が好きになりました。子どもたちみんながこのような体験をすることができればもっと英語を好きな人が増えるだろうし、コミュニケーションをとろうとする態度を育成することができるだろうと感じました。(名前がありません)

③⑥今回の講義では、外国語が教科として必修化されるまでの流れを確認した。様々な議論の中で、外国語の在り方を考えることができ、私が外国語の講義を受けた際にも、言語はコミュニケーションのためにあるということを強く感じました。今回も初等外国語として、外国語を学ぶ意味をしっかりとらえて、子ども達の本音を言える場、伝えたいことを伝える場にするための工夫を考えていきたいと思いました。

③⑦私が小学校の頃に授業で行った外国語はハロウィンやイベントなどの時に「パンプキン」などと言った簡単な単語を学び、友達と簡単な英語を使って話すゲームなどを入れた楽しさに重点を置いた授業であったように感じる。中学にあがると、文法などの記述式が増え、友達との英語を使ったコミュニケーションは小学に比べると少なくなっていたように感じる。先生がおっしゃったように、私も教師は英検1級を持っていなくても、3級程度持って

いれば、子どもたちに教えることはできるのではないかと考える。グループディスカッションで How are you? と聞かれて、I'm fine !! と答えるのは決まった形になってしまっていて、本当の様子を伝え切れていないのではないかという議論がでて、確かにそうだなと英語教育、そして日本の教育を改めて見つめ直すことが出来たと思う。

③⑧ 今回の講義では、英語教育の課題や実状について考えることができました。私がこれまで受けてきた授業では、自分の感情や考えについて英語で伝えることはあまりなく、文法を中心に学んできました。私が高校生の時は自分たちで研究した分野の内容を英語に直して発表するという活動は行いましたが、学んできた文法に忠実に書くことを意識した記憶があります。他のグループの発表を聞いて、私も英語の授業の最初に必ず行うコミュニケーション活動で、間違えることを恐れていつも決まった言葉を使っていたなと思いました。英検の面接でも緊張していたり少し元気がない時も、他の言い方を知らずに「I'm fine.」とばかり応えていたので、本当の英語の活用ができていないと感じました。今でも自分の伝えたいことを伝えられるかと聞かれたら自信がありません。しかし、英語教育が進んでいて、文法にこだわらずに自由な表現でコミュニケーションを図れるように変化しつつあるので、大人はその時代に沿って固定観念を無くしていかなければならないと考えました。私は高校から英語が苦手になってしまったのですが、楽しみながら英語について関われる方法を模索していきたいと思います。(名前がありません)

③⑨ 自分の気持ちを表現するような外国語の授業があったかどうかについて自分の体験や周りの人の意見を聞いたとき、「I'm fine」やディベートなどは型にハマった感情を話しているだけで、自分の気持ちとはいえないことを感じた。スキル重視の授業ではなく、コミュニケーション重視の授業とは apple という単語を使って文章を話すことができるようになることではなく、なんとか apple を表現しようとするその態度を身につける授業であることを感じた。この考えを自らの授業づくりや教材研究活かしていきたい。(名前がありません)

④⑩ 今回の講義で日本の外国語教育がスキル重視からコミュニケーション重視に移っていったことが分かった。定型文を話すことから伝えたい内容を話すことへシフトするというのは容易ではないと思うが、その伝えたい内容が真実に近ければ近いほど強く伝えようとするのかなと思った。個人的な考えだが、「不自由なく」コミュニケーションをとると考えた時には語彙力が必須となってくるが、あくまで「コミュニケーションをとる」だけなのであれば 3 歳児程度の語彙があれば基本的に十分といえるだろう。そう考えた時に中高生にならなければコミュニケーションがとれないかと言われたらそんなことはないと言える。スキル重視にしてきた結果として、多くの単語を覚えていないとコミュニケーションがとれないと思いついていてというのは一理あると感じた。

④①自分の小学校時代から今までの英語との関わりを振り返って考えてみることを普段はしないのでとても新鮮だった。今必要なのは実践的で会話的な英語力だと思うが今までの教育はそれに見合う教育ではなかったのかなと思う場面が多々あったことに気づくことができた。単語や文法、定型文などは確かに始めた頃の頃などは必要だと思うがその教育のまま続けてきてしまったと考える。発言しやすい環境と意欲的になれる授業づくりに加え、自分を変えずにそのまま表現することが必要だと思う。今回の講義も普段気にしてこないことについての議論を深めることができたのでとても有意義な時間となった。

④②今回の講義を通して、第二言語と母国語の差異がしっかりと理解できた。母国語では話す時「伝える」ということを大前提としているが、第二言語では話す時「伝える」という意思よりも「通じる」という意思が強いのかなと感じた。したがって、そこが原因となり、第二言語では真の気持ちを伝える事ができないという問題点が発生していると思う。もし将来教員になり自分自身が英語を教えるようになれば、この「伝える」という活動を重要視し、指導を行っていきたい。